

大学生らがオリジナル製品

京町家の木材を再利用

アクセサリや時計など製作

取り壊しが決まった京町家の木材を再利用しようと、京都工芸繊維大学(京都市左京区)の学生らが、オリジナルのアクセサリや時計などを製作した。「京町家を100年以上支えた木に、もう一度命を吹き込みたい」と企画したもので、今後、商品化も予定されているという。

木材商「丸嘉」(同市伏見区)の協力で、同大の授業の一環として実施。都市開発などが理由で1年間に京都市内の町家の約2%が取り壊されており、今回の企画を思い付いたという。

学生らは5月ごろから製作に取りかかり、町家に残されたクロマツやヒノキなどを利用。穴があいていたり乾燥して固くなっているなど、古い木ならではの難

しさもあったというが、町家の柱を利用した置き時計や、色や材質の異なる木を組み合わせた一輪挿しなど、ユニークな作品約30点を製作した。

作品は「京町家サロン木想倶楽部」(京都市中京区)で展示、販売したが、来場者から非常に好評だったという。

町家の梁からキーホルダーを製作した同大学院2

年の繁信裕輔さん(26)は、「100年以上も前から多くの人の思いが込められた木材だったので、それをどう生かすかを考えた。長く愛用してもらったらうれしい」と話していた。

今回作られた作品の一部は、丸嘉で商品化する予定という。問い合わせは同社(☎075・200・3887)。



取り壊された京町家の木材を利用してさまざまな作品—京都市中京区